

内藤角右衛門

名

内藤景堅

ないとう・かくえもん

ないとう・かげかつ

福山藩家老、内藤氏第9代

経歴

生:寛政3年(1791年)ごろ

没:安政6年(1859年)、享年70歳

文政5年(1822年)春	32歳ごろ	江戸に赴く
文政5年(1822年)12月ごろ	32歳ごろ	福山に戻る
弘化3年(1846年)	56歳ごろ	正弘公の命により藩の軍制を整備
安政元年(1854年)	64歳ごろ	会津の軍法により藩の軍政を改革

生い立ちと学業、業績

内藤氏第9代、名は景堅、通称は角右衛門、初め延三郎景弘、号は南峯。第8代内藤角右衛門景充の養嗣子。実は阿部隼人の子。一般には代々東門大夫(たいふ)と呼ばれた。

阿部正精、正寧、正弘、正教の四君に歴仕、江都に祇役が十有一度。
正弘公の治政時、内憂外患のなか福山城を護り家中の士気を涵養した。
弘化3年(1846年)に正弘公の命により藩の軍制を整備した。
また安政元年(1854年)には、会津の軍法を自ら伝えて藩の軍政を改革した。

人となりは温厚廉白で読書を好み、易理に通じていた。
武備に怠りなく詩賦を好み、長者の風ありといわれた。

誠之館展示品

管理No.	氏名	名称	制作	日付
t1250	内藤景堅 書	和歌「月前雲」	—	—

出典1:『福山藩の文人誌』、107・151頁、濱本鶴賓著、葦陽文化研究会編刊、1988年7月27日

出典2:『誠之館百三十年史(上巻)』、58・110・156頁、福山誠之館同窓会編刊、昭和63年12月1日

出典3:『門田朴齋「朴齋先生詩鈔」詳解初編』、90頁、門田朴齋著、吉備人出版、2011年7月12日

2008年5月1日追加●2011年7月28日更新:氏名・経歴・本文・出典●2011年8月5日更新:本文・出典●2015年2月5日更新:誠之館展示品●2015年7月24日更新:誠之館展示品●